戦争と平和の資料館
ピースあいちニュース
第43号
2023年7月15日発行
〒465-0091
愛知県名古屋市名東区
よもぎ台2丁目820
電話・FAX 052-602-4222
発行:戦争と平和の資料館ピースあいち　http://peace-aichi.com/　【定価:30円】

予告　2年前からプロジェクトチームで視察や勉強会を続けてきました！

ピースあいち 夏の企画展「新美南吉の生きた時代－文学と戦争と平和」

2023年7月18日（火）～9月9日（土）

わずか29年の生涯で、童話300余編、詩200余編、短歌330余首、俳句500余句を創作した新美南吉。企画展では、南吉の生涯を4つに分けて展示しています。

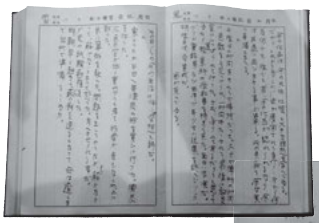
最初は南吉を育んだ岩滑（やなべ）の風土と、創作活動の始まった愛知県半田市時代です。二番目は東京時代。2度の喀血により健康不安を覚え失意の帰郷をしましたが、北原白秋や巽聖歌（たつみせいか）との出会いもある充実した東京生活でした。三番目は最も輝き、生き生きとしていた安城高等女学校での教師時代。死に至る病にかかりながらも、次々と作品を書き上げていた時代でもありました。南吉の生きた時代は戦争の時代と重なります。四番目の展示では戦争がどのように人々に影響を与えていたか、その中で南吉は平和についてどう思っていたかを作品や日記から考察しています。

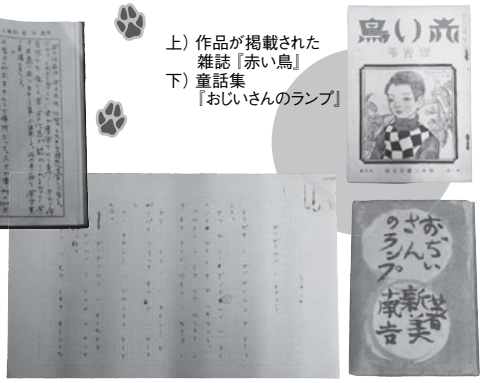
この企画は2年前にボランティアが提案し、以来、18名のプロジェクトチームで視察や勉強会を続けるなか、多くの方々とつながりを得て実現しました。国民的童話「ごんぎつね」の作家・新美南吉のいろいろな側面を知っていただけたら幸いです。

▲都築弥厚（つづきやこう）の資料を持つ安城高等女学校教員の頃の新美南吉

新美南吉記念館のご協力のもと、作品紹介パネル14点、解説パネル30点、実物資料9点、レプリカ資料9点ほかを展示いたします。作品紹介パネルには、野村郁夫氏がオリジナルの絵を描いてくださいました。

◆後　　援　名古屋市教育委員会
◆資料提供　新美南吉記念館
◆観 覧 料　大人500円　小中高生200円
入館料大人300円　子ども100円を含みます。


半田中学時の日記



上）作品が掲載された雑誌『赤い鳥』
下）童話集『おじいさんのランプ』

デンデンムシ ノ カナシミ原稿

関連イベント

①～③は要予約40名。お電話でご予約ください。詳しくはHPでご確認ください。

①7月18日（火）
ギャラリートーク
11:00～　3階企画展示室
企画展のために新美南吉の作品を絵で表現してくださった野村郁夫氏に作品への思いをお聞きします。

②7月22日（土）
講演会「南吉とその生きた時代」
14:00～15:00　1階交流のひろば
山本英夫氏
新美南吉記念館第4代館長

③7月29日（土）
新美南吉朗読会
13:30～14:30　1階交流のひろば
ピースあいち朗読の会「オリーブ」による朗読会。演目は「手袋を買いに」「貝殻」他。

④8月19日（土）
作って鳴らそう「貝殻笛」
随時（所要時間約15分）
1階交流のひろば　南吉が鳴らせていた貝殻笛を作って鳴らしてみよう。貝殻は用意しています。

かすや昌宏さんの『ごんぎつね』の絵本展

国際的な絵本作家・かすや昌宏さんの「ごんぎつね」の世界をご紹介します。

本を読んだり、お絵描きをしたり、童話の動画を観たり…。ゆっくりと南吉の世界に触れてください。

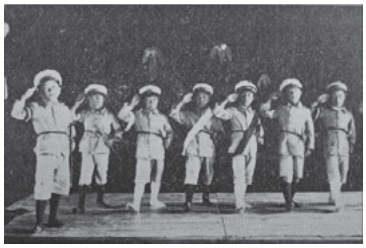
予告 「戦争で親をなくした子どもたち―戦争孤児を知っていますか」
子ども企画展「戦争の中の子どもたち」と「戦争と動物たち」

2023年10月10日（火）～11月25日（土）

「戦争の中の子どもたち」では、ピースあいちが所蔵するパネルや戦争遺品などを展示し、子どもたちがどのような教育を受けて、軍国少女・軍国少年になっていったか、振り返ります。

動物も戦争の犠牲になりました。「ゾウを守った東山動物園」を中心に、ウサギ、イヌ、ネコなどの身近な動物たちの犠牲にも触れています。

特別展示では、「戦争で親をなくした子どもたち―戦争孤児を知っていますか」を展示します。名古屋でも浮浪児を受け入れた民間の施設があったこと、満州からの引き揚げで孤児になった橋本克己さん（ピースあいち語り手）のことなど、子どもたちに分かりやすくパネルで紹介します。戦争は多くの孤児を生み出すことを改めて考えてみたいと思います。



1941年頃国民学校2年生「学芸会のへいたいさん」パネルより

1999年東山動物園「ぞうれっしゃが走って50周年」モニュメントパネルより

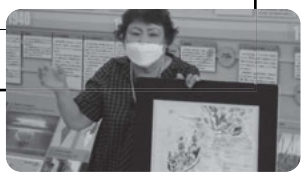
◎今年も、ピースあいちの語り手・語り継ぎ手が「戦争体験」をお話します。

恒例の ピースあいち2023年夏「戦争体験を聴くシリーズ」

会　　場　ピースあいち1階交流のひろば
開催時間　14:00～15:00
参 加 費　入館料（大人300円、小中高生100円）、または特別展観覧料（大人500円、小中高生200円）でご参加いただけます。

定　　員　各日40人。お電話でご予約ください。
TEL.052-602-4222
＊8月5日（土）、8月9日（水）、8月15日（火）はオンライン配信もあります（参加費無料）。オンライン参加の申し込みは右のQRコードから。

開催日 8月／	語り手	開催日 8月／	語り手
1日（火）	田中　玲子さん（語り継ぎ手の会） 父の戦争・堤茂子さんの戦争	9日（水）	大山　妙子さん（語り継ぎ手の会） 叔父・叔母の長崎原爆
2日（水）	佐藤 誠治さん（89歳　語り手の会） 空襲・学童疎開体験	10日（木）	井戸　早苗さん（84歳　語り手の会） 空襲下の暮らし・戦後の暮らし
3日（木）	高山　孝子さん（88歳　語り手の会） 空襲、疎開体験	11日（金）	澁谷　美子さん（語り継ぎ手の会） 上野三郎さんの戦場体験
4日（金）	中野　見夫さん（84歳　語り手の会） 空襲体験	12日（土）	橋本　克巳さん（88歳　語り手の会） 満州からの引き上げ
5日（土）	佐々木陽子さん（語り継ぎ手の会） 私のヒロシマ	15日（火）	八神　邦子さん（88歳　語り手の会） 学童集団疎開
8日（火）	萩原　量吉さん（83歳　語り手の会） 空襲、疎開体験―ゾウ列車に乗って		



愛知・名古屋戦争に関する資料館　戦争体験を聞く会

ところ：愛知・名古屋戦争に関する資料館　2階会議室
　　中区丸の内3―4―13 愛知県大津橋分室
時　間：いずれの日も13時30分～14時30分
参加費：無料　申し込みは愛知・名古屋戦争に関する資料館　TEL.052-957-3090

開催日 8月／	語り手	開催日 8月／	語り手
13日（日）	松下　哲子さん（89歳　語り手の会） 満州・奉天市における戦中戦後の生活	18日（金）	青木　正雄さん（語り継ぎ手の会） ペリリュー島で戦死した父の戦場体験
14日（月）	中川　弘美さん（語り継ぎ手の会） 母の学徒動員・空襲体験	19日（土）	小澤美由紀さん（語り継ぎ手の会） 17歳で戦死した大叔父
16日（水）	木下　信三さん（88歳　語り手の会） 国民学校5年生―学童疎開の体験	20日（日）	森下規矩夫さん（85歳　語り手の会） 空襲体験―バンテリンドーム近くで
17日（木）	近藤世津子さん（語り継ぎ手の会） 斎藤孝さんの戦争体験	21日（月）	津田さゑ子さん（85歳　語り手の会） 7歳の空襲体験―御園座近くの自宅焼失

報告　南西諸島軍事要塞化の実態を伝える解説パネルを加えて 企画展「沖縄から平和を考える―ウチナーとヤマトの架け橋に」

2023年5月16日（火）～7月8日（土）

2023年の沖縄企画展は、着々かつ急ピッチで進められる南西諸島軍事要塞化の実態を伝える解説パネルと準常設展用のパネルを合わせ「沖縄から平和を考える」と題して約50日間開催しました。

本土では南西諸島への自衛隊配備の状況、基地建設の実態などはあまり報道されませんし、この状況をめぐる沖縄県民の受け止めや懸念、不安についての報道も稀です。私たちはそこに焦点を当て、南西諸島の軍事要塞化を自分事として考え、また沖縄戦において「捨て石」とされた沖縄が「新しい戦前」と称される状況に置かれることへの沖縄県民の不安や怒りをも共有できればと考えました。

また、「沖縄の戦争遺跡」写真展（2階プチギャラリー）、映画「沖縄スパイ戦史」上映会（6月11日）、慰霊の日関連講演会・語り継ぎ実演会（6月24日）と合わせ、沖縄戦から現在に至る沖縄の現実をお伝えしました。これらイベントには定員を上回る申し込みをいただき、お断りした方々も少なくありません。あらためてお礼とお詫びを申し上げます。会期中の来館者は592名に上りました。

会場

会場

2階プチギャラリー展示

講演会

語り継ぎ

○アンケートから

■戦場になるということがどういうことなのか、とてもよく分かりました。ホントウのこわさを知りました。ウクライナでも同じようなことがあるのかと胸が痛みます。（女性）

■沖縄戦であった1つ1つのエピソードは知っていたが、今回の映画を通してそれぞれが1つの線のようにつながり、沖縄戦の新しい側面が知れたようでよい学びとなりました。（女性）

■すでに「戦中」ではないかとの阪井先生のお話、合点しました。人権と平和を基調とした日本国憲法下で、今ある現実（戦中）は重いです。でも手にした憲法を基に、反戦、沖縄を戦場にしないために心して生きていきます。（女性）

■比嘉俊太郎さんの沖縄戦体験の語り継ぎ、心にしみました。（女性）

■戦争、沖縄戦など話し尽くされた気でいましたが、護郷隊、はじめて知りました。（女性）

■昨年沖縄に行きました。基地を見ました。辺野古岬で「沖縄を守れ」と叫びました。（男性）

■様々な人の視点から沖縄戦を見ることで、戦争の見方がこれまでと変化したように思います。沖縄戦でおきたことを忘れないようにしようと思いました。（女性）

新年度の理事会・総会を開催

NPO平和のための戦争メモリアルセンターは、5月14日に理事会、6月4日に総会を開催しました。今年は3年ぶりにピースあいちを会場に開催しました。昨年度の事業報告と新年度の活動計画を決め、今年度は2年任期の役員改選の年で理事23人、監事2人を選出しました。6月20日に臨時理事会を開催し、理事長に鈴木秀幸さん、副理事長に宮原大輔さん、河原忠弘さんを選出しました。

「名古屋空襲慰霊の日」制定に向けて

2014年、2018年、そして今年1月の東邦高校生徒会による提案―名古屋空襲の犠牲者を追悼し、平和について考えるきっかけとするために「名古屋空襲慰霊の日」の制定を求める―を受け、この3月、名古屋市長が「慰霊の日」を制定する方針を示し、「名古屋空襲の犠牲者を追悼する日（仮称）協議会」が設置されました。これまで2回の協議会が開催されて話し合いが行なわれました。当館の宮原大輔館長も委員として参加し、犠牲者名簿の作成や慰霊のための施設を設けることなどの意見を述べました。

平和へのメッセージ

ウクライナで戦争が始まって、ほぼ1年半。すぐにでも終わるという意見もありましたが、まだ終わりません。長びいているわけは多分、意地です。お互い「お前の言うことなど聞けるか」と言うわけです。それなら意地をほぐしてやったらどうでしょう。ほぐし役には日本が適当です。戦後もう78年も対外的な戦争をしていません。そういう国が言えば説得力があります。何というか。「とにかく戦争は止めましょう」の一言。これだけです。きっと最強の「平和へのメッセージ」になることでしょう。

※前42号「平和のメッセージ」の東野裕子さんのメッセージの中で、「糸貫一雄氏」とありましたのは「糸賀一雄（いとがかずお）氏」の間違いでした。糸賀一雄さんは、「この子に世の光を」でなく「この子を世の光に」と提唱者した社会福祉の実践家です。ご迷惑をおかけしました。お詫びして訂正します。

武力によらない平和を生きる―非暴力抵抗と平和的生存権

大脇　雅子
（弁護士）

安保3文書（国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画）の閣議決定は、国会の議論を経ることなく、日本国憲法の平和主義を捨て、日本の軍事化を推し進め、日本を「普通に戦争をできる国」へと姿を変えようとしている。

日本国憲法の心柱は、戦争、貧困、差別、環境破壊の脅威から免れて平和に暮らす「平和的生存権」である。「人権」として保障している平和的生存権と、日本社会の底辺を地下水脈のように流れている民衆の「非暴力抵抗」を根源的理念として、日本社会の平和を再創造する必要が問われている、と想う。

私は今年2月、『武力によらない平和を生きる―非暴力抵抗と平和的生存権』という著書を旬報社より刊行して反戦、不戦を訴えた。私からの平和へのメッセージである。

若い世代が戦争の記憶を作品制作に

小塚　康成
（東邦高等学校　美術科教諭）

本校美術科の生徒が戦争体験に基づく作品制作を行うのは、コロナ前の平成30年に続き2回目となる。前回の展示では各方面から予想以上の反響をいただき、改めて戦争を知らない若い世代が戦争について考える機会の大切さを知った。今年度は名古屋空襲を体験されたピースあいちの語り手・筧さんを本校にお招きし、その講話をもとに美術科1年生の生徒たちが作品制作を考える機会とした。

名古屋空襲を体験され、防空壕に待機中、目の前に爆弾が落ち、友人を亡くされたお話や、疎開先で大変な苦労を強いられた筧さんのお話は、今の高校生にとって非常に衝撃的なものだったと感じている。ウクライナの問題もあり、戦争は決して遠い過去のものではないという認識があるのだろうか、筧さんの講演後、自ら広島に行って取材したいという生徒や、戦争の記憶が色褪せずに残り続けるためにはどんな表現をしたらよいかと様々な美術作品を調べる生徒など、自分にとって何ができるかを考える生徒が多く現れ、講話の受け止め方は想像以上に大きかったと振り返る。

来年2月の展示まで半年以上あることから、夏休みをかけて生徒自ら戦争の歴史や、戦争と美術について考える機会を設けたいと考えている。

講話から受けた印象をもとに、生徒一人ひとりが、それぞれの解釈で戦争という過去の真実に向き合い、どのような作品を制作するか期待したい。

平和へのメッセージを止めてはならない

広中　一成
（当NPO理事･大学教員）

ロシアのウクライナ侵略が始まってから、およそ1年半がたつ。その間に日本は、ウクライナに資金援助をすることで、間接的に戦争とかかわってきた。よって、この戦争は私たち日本人にとってまったく他人事ではないのだ。この戦争を止める手立てはないのか。それに私たちが役立てることは何なのか。

これまで私は日中戦争の研究をとおして、日本の中国侵略の実態、中国側の抵抗の様相について、丹念にたどってきた。さらに、その研究成果をもとに、二度と戦争を起こしてはならないというメッセージを発信してきた。周知のとおり、ピースあいちも、今日までさまざまな企画をとおして平和の大切さを訴えつづけている。

だが、世界各地で争いが繰り返されるたびに、私たちの取り組みはいったい何なのかと自問し、ときおり虚しさすらおぼえる。

武器を持たない私たちができること、それはやはり平和へのメッセージを唱え続けていくことではないか。その声が強くなれば強くなるほど、それは戦争を止める平和な「武器」となろう。私たちのその信念は、今後いくら激しい戦いが起きようとも決して揺るがない。

語り手・高山さんとの出会いから

まがた　きよこ
（街の絵かきさん　鎌倉市在住）

4月6日から3年半ぶりに鎌倉の喫茶店で個展を開催した。何度も諦めた私に開催を決心させたのは、昨年ピースあいちの語り手・高山孝子さんの疎開体験の絵の製作だった（ピースあいちメールマガジン第159号参照）。

個展初日の朝、キャプション（題名）をつけ終わり、一息ついた時、ケーキ客の男性が席に着いた。とりあえずご挨拶をと、案内状と「たかちゃんのお話」の説明文を渡した。すると「90歳の両親から日々聞いた話とぴったりです」と、思わぬ言葉をいただいた。2回目の来場時は、お父様の中学生時代の空襲体験や戦中戦後の暮しを記録した手記（「銃後日誌」）をくださった。3回目は、初対面の私の知人とも親世代や今の戦争の話を盛んにされていた。ほかにも、疎開世代のお客様には貴重な体験をうかがうこともできた。また、「語り継いでいくことが大切ですね」と言われたり、上述の説明書きのコピーを大切そうにしていただいたりなど、嬉しい驚きの12日間だった。

個展の後、水彩レッスンの生徒のお1人、若いおばあちゃんから、「たかちゃんの絵ハガキを紙芝居にして、孫に語りたいから文章をください」と言われた。それは高山さんとの間を取り持って下さったピースあいちのボランティアの高橋さんが引き受けてくれた。今度はぜひ紙芝居を聴いたお孫さんとのやりとりを聴き、愛知の皆さんにお伝えするのが楽しみである。

語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で、恒久平和の実現を!

加藤　義明
（連合三重 副会長）

6月22日、連合三重国民運動検討委員会11名がピースあいちを訪問し、視察学習会を開催しました。

2022年2月24日にロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まり、いまだ終結の兆しが見られない状況で、連合は軍事侵攻を厳しく非難し、即時・撤退と核兵器反対・恒久平和を強く求めております。今回の施設見学では、改めて戦争の悲惨さや恒久平和について学ぶ機会となりました。

語り手の松下哲子さんより、戦後に満州から命がけで日本に帰国し、差別という辛い思いをされた体験談を聞かせていただきました。また、ガイドの野田隆稔さんより、施設内のパネルや展示物の説明を受けた際に、投下された焼夷弾の筒の実物を一人一人が手にして、一瞬にして焼け野原となった写真を見ると、破壊力の恐ろしさや虚しさを実感し、二度と戦争はあってはならないと心から強く感じたところです。

連合は、安心して暮らし、働くためには、「社会が平和で安定していること」が大前提で、平和なくして私たちの生活、労働、組合運動はないと考えております。戦争をしない・戦争をさせない世界をつくるため、世界の恒久平和をめざして取り組みます。

報告 平和を願う思いをこめて 開館16周年 ピースまつり　5月6日（土）

まだ新型コロナ感染状況に注意を払いながら開催し、ボランティア仲間が出演しました。おなじみの曲やなつかしい曲のピアノ演奏から始まり、朗読会はウクライナの少女を取り上げた作品などを朗読の会「オリーブ」の皆さんで。その最後は荻野克典さんが「キーウから遠く離れて」を歌いあげました。常設展・企画展のガイドも参加者に好評でした。

プログラムラストは、渋井康弘さんがギターで歌う「LOVE&PEACE」。ゲストの平田雅己さんと岡田彩花さんが加わった「フラワーフィールズバンド」に拍手喝采でした。今起こっている戦争に対し、朗読や歌で平和を願う思いが込められて、会場の参加者と一体感がありました。

▲「オリーブ」による朗読

▲ボランティアガイドによる展示ガイド

▲フラワーフィールズバンド

ピースあいちの「語り事業」

先の戦争体験を次の世代に伝えていくことは平和を築くための大きな要素だと考え、ピースあいちは「語り事業」を大切にしています。戦争体験の「語り手」さんと「語り継ぎ手」さんたちは、互いに敬意を抱きながら交流を深めています。

会員の思いや考えを今後の活動に反映させて 語り継ぎ手の会（リボン）2023年度総会を開催　5月21日（日）

事務局スタッフを含め19人の会員が出席し、前年度の活動を振り返り、今年度の計画などを話し合いました。

ピースあいち副館長の吉岡さんのご挨拶にもあったように、語り継ぎ活動の役割は年々大きくなっています。活動をさらに充実させるため、今回初めて会員向けにアンケートを行い、それぞれの思いや考えを今後の活動に反映させることにしました。会員同士が語り継ぎの体験を深めあい、交流しあう機会を増やしていくことが最重要の課題です。

今年も、8月のピースあいちの語りシリーズを始め、多くの場で会員が登場します。どうかご注目をお願いします。

語り手と語り継ぎ手が交流した有意義な会 語り手の会「第13回例会」の開催　6月21日（日）

午後2時からピースあいちで語り手12名、語り継ぎ手（リボン会員）10名、スタッフ等9名、計31人の参加で行いました。活動報告後、会員からは「体調を整えて参加した」「こういう場はとても良い。もっと交流する機会を増やしてほしい」「世界の平和なくして個人の平和はない」などの発言、語り継ぎ手からは「語り手の方の気迫や熱意を感じた」「語り手の人は健康に留意され語り続けてほしい」「今後も交流する機会がはしい」などの意見が出ました。

例会後も交流の輪があちこちにでき、語り手・語り継ぎ手が参加した有意義な会となりました。

シリーズ
平和を守る仲間たち⑰

岡崎空襲を記録する会

再来年には結成50年を迎える「岡崎空襲を記録する会」です。機関紙「草の根」も隔月で発行して、次号で100号に到達します。会を立ち上げた故小田幸平さん、香村克己さんなどの業績に感謝申し上げます。

50年弱の運動を振り返ってみますと、慰霊碑の建立、刻名板の設置、体験記（第1～4集）の発行が大きな推進力になりました。1975年に会を結成して、すぐに『岡崎空襲体験記第1集』に取り組み、翌年には発行しています。1977年には「岡崎空襲の慰霊碑をつくる会」も作り慰霊碑の建立募金を市民に訴え、半年で300万円を1070名の協力で達成しています。

その後も体験記を第4集まで発行し、その間にも体験画の募集をして40点以上を集め記録の充実に努めました。そして2020年には、岡崎空襲の戦災犠牲者の氏名を特定し（岡崎空襲だけでなく戦災犠牲者をすべて）、279名の氏名を刻んだ板（刻名板）の設置を実現しました。岡崎市も公式には207名としてきましたがこれを契機に訂正しました。

空襲のあった7月19日（正確には20日未明）には市民慰霊祭、図書館のギャラリーでは写真パネルや体験画などの展示、8月には市内の団体と協力して「戦争体験を語る・語り継ぐ会」と1年の運動のピークになります。

（代表　杉田 隆志）

慰霊碑（左）と刻名板（右）

りぶら（中央図書館）での展示

ボランティアの窓

伝える立場になって

増田 圭佑

普段は、こども園で働いています。去年は、5歳児の担任をしていました。園では月ごとに季節の行事が多くあります。一年間の中で夏、特に8月というのは世の中でもっとも戦争について目を向ける季節でもあります。なので、試しに5歳児の幼い子どもたちにも「戦争」について話をしてみようと思い、『かわいそうなぞう』という絵本を通じて話してみました。

話をしている中で、ある女の子が「戦争って知ってる。テレビで見た」と言ったのです。ウクライナとロシアが戦争をしていることを5歳の子が知っていること、そしてクラスの半分ほどの子たちが、テレビで戦争のニュースを見て知っていることに驚きました。今の子たちは、テレビだけではなく、スマホでYouTubeやSNSなどで様々な情報を簡単に得ることができます。どこまでを話すべきか、理解できるのか、非常に難しかった記憶があります。

ピースあいちでは、次世代交流チームにて活動させていただいており、コロナもピーク時よりは落ち着きを見せるなか、活動も少しずつ再開しています。「学生の日」など様々な活動で、多くの若い人たちと意見を交換していきたいと考えています。

私が本当に伝えたいことは、

湯浅 綾佳

祖父は、ほろ酔いになると昔話を始める。子どもの頃の好物や、親兄弟の話。そして、母や妹と逃げたという東京大空襲の話。昔は長話にげんなりしたが、あるときから気付き始めた。

逃げ道が1本違っていたら、焼夷弾が1秒ずれて落ちていたら、祖父は死んでいたかもしれないこと。

そのずれは祖父を救ったけれど、名前も知らない誰かはそのせいで犠牲になったこと。

過去だけでなく今日も、私が笑っているこの瞬間に、どこかで「誰か」が死んでいる。その「誰か」の「なんで私が死なないといけないの?」という声。

誰かを身代わりにして私が生きているようで、怖くなった。

そんな「誰か」が生まれず無垢に命を楽しめる未来をつくるために、そして「誰か」に恥じないために、自分にできる精一杯の生き方をしたいし、みんなにもそう生きてほしい。

暴力反対を超えて私が本当に伝えたい、心からのメッセージ。

資料館探訪 35

韓国人慰霊碑（広島平和公園ー3）と被爆樹木（平和公園）

G7が広島で開かれ、各国の首脳がヒロシマを訪れた。慰霊碑や資料館などが話題になったが、岸田首相と韓国のユン・ソンニョル大統領が訪れた碑がある。「韓国人原爆犠牲者慰霊碑」である。原爆の子の像の真西にある。亀を形どった台座の上に碑柱が立ち、その上に双竜の冠が載せられている。高さは5m、建立されたのは1970年4月10日である。建立された場所は平和公園外の朝鮮王朝の李殿下が被爆した本川橋西詰めであった。平和公園内移設について、各方面から強い要望が出され、1999年の7月に公園内に移設された。2万余の霊が納められている。広島で亡くなったのは日本人ばかりではないという歴史を考えさせる記念碑でもある。

名古屋の平和公園にも、広島の被爆にかかわるものがある。それは「あおぎり」である。爆心地の原爆ドームから1.5㎞離れた逓信局の庭に3本の「あおぎり」があった。当時、70年以上草木は生えないといわれていたし、幹が半分しかなく、葉が枯れてしまった「あおぎり」から奇跡的に新芽が出た。この「あおぎり」の種が全国各地に配られた。その1本が名古屋の平和公園にある。これにはピースあいちもかかわっている。広島の平和公園の中にも「あおぎり」が植えられている。（N）

韓国人原爆犠牲者慰霊碑

平和公園の「あおぎり」

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン（無料）」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

新会員を大募集中!! 知人・友人にもお伝えください。

「ピースあいち」は、民営でボランティア運営でも、光熱費・固定資産税等で施設維持に年1千2百万円かかります。他方で収入は、展示会などで来館された方の入館料（大人300円、こども100円）は、コロナ禍もあり、年百万円にとどきません。多額のご寄付や助成金がとても大きな助けになっていますが、毎年予定できるものではありません。最も頼りになるのは、会員の皆様からいただく年会費収入です。正会員6000円、賛助会員3000円です。いま、正会員が約320人、賛助会員は約400人。もっともっと増やしたいのです。

「ピースあいち」の活動に共鳴していただける方なら、どなたでも大歓迎です。電話・Fax 052-602-4222にご一報ください。クレジットカード、銀行振込で入会、寄付していただけます。

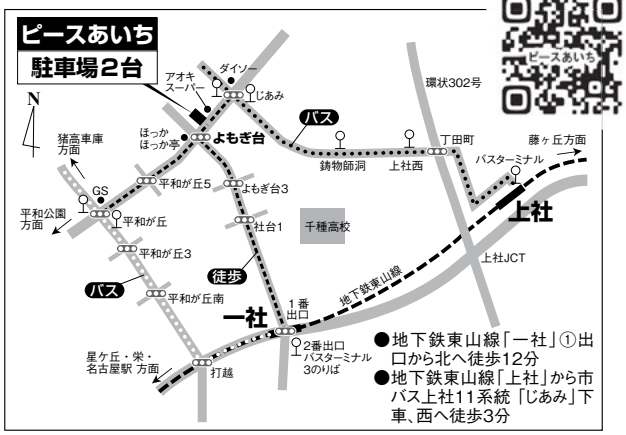
オンラインの**入会**はこちら

オンラインの**寄付**はこちら

【利用案内】

- 開 館 日　火曜日～土曜日
- 開館時間　午前11時～午後４時
- 休 館 日　日曜日・月曜日
- 入 館 料　夏の特別展の観覧料は、大人500円・小中高生200円（通常の入館料、大人300円・小中高生100円を含みます。）
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下のくらし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります（300円）。他に障がい者用が1台分あります（無料）。

■交通のご案内



●編集後記●

終戦の時13歳だった少年が、50歳くらいになった時言った言葉。「自宅から防空壕へ逃げるとき、親にも黙っていたけど、目の前に焼夷弾が落ちてきた。あと数秒で死んでいた」。もう一人、近所のおばさんの話。「息子が隣の家の台所の鍋にあったサツマイモを食べてしまって――。きつく叱ったけど、よほど腹ぺこだったんだろうね」

皆が語り継ぐ話を持っていた。新美南吉はどうだっただろうか。終戦の時にはもう亡くなっていたけど、半田空襲の様子や戦後の復旧の感想をぜひ聞きたかった。

（ks）